

令和2年度事業報告

(公財)こうべ市民福祉振興協会は、「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念である神戸市、事業者及び市民の三者が有する人材、資力などを総合的に活用することによって市民福祉を振興するための事業を創造・推進し、市民福祉の向上に寄与することを目的としている。

また、2025(令和7)年における当協会のあるべき姿及び取り組むべき重点施策を示した「2025ビジョン」(平成30年6月策定)や、新たな福祉課題に対応するため神戸市が令和元年度に設置した「しあわせの村リニューアル検討有識者会議」の提言の実現を目指し、各種の事業に取り組んでいる。

しかしながら、令和2年度の事業運営については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう各種事業の中止や実施方法の見直し、しあわせの村をはじめとする施設において休業や営業時間の短縮を余儀なくされる等大きな影響を受けることとなった。

令和2年度事業報告

※事業実績の〈 〉内は、令和元年度実績を示す。

【公益目的事業】

I 市民の福祉意識の啓発並びに福祉活動の普及及び助長[公1] 69百万円

「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念を実現し、人口減少や少子高齢化の進行やコミュニティの衰退に伴う福祉課題の複合化・複雑化などに対応するため、福祉資源としての市民の有する力のさらなる活用を図り、市民に対する福祉意識の啓発や、市民の福祉活動を振興する事業を実施した。

1 市民の福祉意識の啓発を図る事業

(1) 市民福祉情報の発信

しあわせの村ホームページ内にWEB版の情報ページ「しあわせの村 NEWS ぴっくあっぷ」を令和2年7月に新たに設置するとともに、手話通訳動画による施設の営業状況やイベント等の開催情報、施設の利用案内の提供を開始した。

なお、全市的な福祉・健康に関する情報を広く紹介するために発行していた情報誌「市民ふくし」は、令和2年度をもって紙媒体での発行を廃止した。

[情報ページ発信回数] 9回(7月以降毎月1回) 〈情報誌発行 年6回・各30,000部〉

(2) 福祉学習機会の提供

市民の思いやりの心を育み、福祉について学ぶための機会づくりを目的に、障がい者介助の体験や村内福祉施設の紹介、しあわせの村におけるあらゆる利用者に配慮した施設等(UDスポット)の紹介・見学など、しあわせの村の資源を活かした福祉の体験学習機会を学

校・地域団体等に提供した。

[実施実績] ふれあい体験学習 13団体 1,069人 〈46団体 2,639人〉
出前講座 1校 132人 〈7校 512人〉
UDスポットツアー 4件 36人 〈46件 2,639人〉

(3) 聴覚・視覚障がいへの理解

ソーシャル・インクルージョンの実現を図るため、聴覚・視覚障がいについて市民の理解を深めるとともに、コミュニケーションの大切さを多くの市民が理解できるよう手話及び点字の講座を行った。

また、NPO法人神戸ろうあ協会からのしあわせの村に対する要望を受けて、手話と字幕による番組や災害時に情報を受信・発信することができる「アイ・ドラゴン4」を村内3か所に設置した。

さらに、手話・点字の講座修了者などで組織され、しあわせの村内を中心に障がい者との交流を図るグループに対して、運営の支援や活動機会の提供を行った。

①手話講座（入門課程） 中止

（基礎課程） [実施回数] 1期・全20回 〈1期・全19回(1回中止)〉
[受講者数(修了者数)] 16人(16人) 〈22人(22人)〉

②点字講座 [実施回数] 1期・全32回 〈1期・全33回(2回中止)〉 [受講者数(修了者数)] 3人(3人) 〈8人(6人)〉

③短期手話講習会 [実施回数] 1期・全4回(2期中止) 〈2期・各4回(1期中止)〉 [受講者数]33人(2クラス開講) 〈20人〉

④夏休み子ども向け教室（手話・点字）

「親子で楽しく学ぼう 福祉のオリエンテーリング」（新規）(別掲)にて実施

・ミニ手話教室 [実施日数] 3日(各日2回) [参加者数] 28名

・点字体験コーナー [実施日数] 2日 [参加者数] 29名

⑤「アイ・ドラゴン4」設置施設 本館・宿泊館、温泉健康センター、野外活動センター あおぞら

2 市民の福祉活動の振興

(1) 市民福祉活動支援

市民福祉活動に対する支援の充実を図るために従来の助成制度を見直し、市内に拠点を有する地域団体や福祉団体、教育団体等が、しあわせの村において健康づくりや子育て支援、障がい者支援などの市民福祉の向上を目的として開催する行事などをサポートする相談窓口を新たに設けた。

(2) 「健康創造都市KOBE」の企業・市民活動の支援

「しあわせの村健康倶楽部」の創設

誰もが健康になれるまち「健康創造都市KOBE」の推進や「健康寿命」の延伸を目指し、しあわせの村の施設を活用して普及啓発や予防事業に取り組む「しあわせの村健康倶楽部」を新たに創設した。

栄養や運動に関するプログラムを提供し、会員が記録した栄養や運動のデータを収集して大学の研究と結びつけることにより、市民全体の健康づくりの基盤としていくため、令和2年度は学識経験者等で構成する運営委員会を設置するとともに、神戸市シルバーカレッジの在學生や卒業生からモニター会員を募集した。

〔運営委員会開催回数〕 2回

〔登録会員数〕 81人

3 高齢者や障がい者の社会参加の支援

(1) 「こうべ長寿祭」の開催等

令和2年度はスポーツ競技の各大会や全国シルバー合唱コンクールを中止するとともに、「全国健康福祉祭ぎふ大会」の開催が1年延期されたため、神戸市代表選手団の派遣は行わなかった。

①ふれあいウォークラリー 〔実施日〕 10月24日 〔参加者数〕 396人 〈481人〉

②美術作品展 〔実施期間〕 9月29日～10月3日 〔出展作品数〕 211点 〈211点〉

(2) ユニバーサルデザイン（UD）の推進

ユニバーサル社会の実現を目指し、神戸市のユニバーサルデザイン(UD)のあり方を実践・発信する拠点としてUDの推進に取り組み、その成果を広く全市に発信していくための事業を実施した。

「UD出前授業」は、神戸市教育委員会の指導・助言のもと新型コロナウイルス感染症対策を十分講じながら実施し、「夏休み親子UD体験教室」は、パラスポーツ体験や手話・点字講座、村内福祉施設の見学などを組み合わせ、しあわせの村を巡りながらユニバーサル社会について学ぶ「親子で楽しく 学ぼう 福祉のオリエンテーリング」として実施した。

なお、「こうべUD大学」及び「こうべユニバーサルデザインフェア」は中止したが、「兵庫県立福祉のまちづくり研究所」と連携し、市民を対象とした公開講座として同研究所の見学会を実施した。

①親子で楽しく 学ぼう 福祉のオリエンテーリング(新規)

〔実施日〕 8月1日～8月7日 〔参加者数〕 153組 481人

②UD出前授業 〔訪問学校数〕 32校 〔参加者数〕 2,082人 〈34校 2,234人〉

③福祉のまちづくり研究所見学会(新規) 〔実施日〕 11月24日 〔参加者数〕 16人

④こうべUD活動サポーター（UD出前授業に講師として参画）

〔登録者数〕 20人 〔活動者数〕 延139人 〈22人 延251人〉

4 市民福祉事業の調査研究及び開発

福祉を取り巻く社会情勢の変化により新たに生じるニーズに対応しながら、「しあわせの村リニューアル検討有識者会議」から出された提言の実現を目指し、先駆的・創造的な市民福祉事業の調査研究及び開発に引き続き取り組んだ。

令和2年度は、共同事業体事業者及び村内施設の代表者等を委員とする「しあわせの村会議」を新たに組織するとともに、下部組織として「広報部会」や「しあわせの村まつり実行委員会」を設置し、村内連携の一層の強化に取り組んだ。

また、令和2年8月に「兵庫県立福祉のまちづくり研究所」と連携協定を締結し、それぞれが有する知見や資源を活用し、しあわせの村をはじめとするユニバーサルデザインの推進、地域の発展や人材の育成に寄与することを目指していくこととした。

①しあわせの村会議実施回数 4回

②しあわせの村会議参画団体

〈しあわせの村運営共同事業体〉

(公財)こうべ市民福祉振興協会、(株)グリーンホスピタリティーマネジメント、
(株)ウェルネスサプライ、美津濃(株)、(公社)神戸乗馬倶楽部、
(一財)神戸すまいまちづくり公社

〈医療施設〉

神戸リハビリテーション病院、アネックス湊川ホスピタル、
にこにこハウス医療福祉センター

〈福祉施設〉

神港園しあわせの家、グリーンホーム平成、ワークホーム緑友、
えみのき(咲の樹)、ワークホーム明友、神戸明生園、リハ・神戸

〈オブザーバー〉

NP0法人社会還元センターグループわ、(株)ユーヴェ、(株)いくせい、
(株)冒険の森、東光ローンコンサルタント(株)

③兵庫県立福祉のまちづくり研究所との連携協定

[締結日] 令和2年8月31日

[連携事項]

- ・ 知見の相互提供を通じた事業の高度化・多角化
- ・ 人材の育成
- ・ しあわせの村における実践を通じたユニバーサルデザインの普及促進
- ・ パラスポーツの振興
- ・ その他両者が必要と認める事項、地域の発展や人材の育成に寄与すること

5 こうべ医療者応援ファンドの創設

新型コロナウイルス感染症患者の治療等にあたる医療従事者に感謝と連帯の気持ちを表しその活動を応援するため、神戸市からの依頼に基づき「こうべ医療者応援ファンド」を創設し、市民や企業・団体からの寄付金の募集を開始した。

医療機関への支援金の配分については、有識者で構成される「こうべ医療者応援ファンド配分委員会」を令和2年5月に設置し、令和2年度は同委員会での決定に基づき2度にわたって支援金の配分を行った。

[ファンド創設日] 令和2年4月24日

[寄付金受入方法] 銀行口座への振込（三井住友銀行、ゆうちょ銀行）

クレジットカード決済（総合ファントレディングシステム「コングラント」）

[寄付金受入額] 延3,644件 6億3,283万429円

[配分委員会]

①役割

- ・医療機関等に対する配分基準の決定
- ・各医療機関等に対する配分額の決定
- ・その他、こうべ医療者応援ファンドに関して必要な助言

②委員構成（敬称略・令和2年度）

	氏名	職名（委嘱時）
座長	南 裕子	神戸市看護大学 学長
副座長	藤澤 正人	神戸大学大学院医学研究科 科長
	置塩 隆	(一社)神戸市医師会 会長
	中林 志郎	神戸商工会議所 専務理事
	西 昂	(公社)神戸市民間病院協会 会長
	細谷 亮	(一財)神戸在宅医療・介護推進財団 理事長 前 神戸市立医療センター中央市民病院 病院長

③委員会開催経過

- ・第1回（令和2年5月12日）
令和2年3月から5月7日までの間の新型コロナウイルス感染症患者の入院者数、そのうちの重症者数、PCR検体採取数に基づき第一次配分額を決定
- ・第2回（令和2年6月19日）
第二次以降の支援金配分基準の検討（継続審議となる）
- ・第3回（令和2年8月21日）
令和2年5月8日から9月末日までの間、新型コロナウイルス感染症入院患者に対応した医療従事者の延べ人数に基づき第二次配分を行う方針を決定
- ・第4回（令和2年12月21日）
各医療機関から申請のあった医療従事者の延べ人数に基づき、第二次配分額を決定
- ・第5回（令和3年3月12日）
神戸市から医療従事者に対する新たな支援の要請を受け、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた医療機関に勤務する職員に対する特別配分（一人あたり1万円分のQuoカードの配付）を決定

④配分金の使途

医療機関がそれぞれの実情に応じて、医療従事者への手当・ギフトカードの支給、宿泊費用や慰労費用など、医療従事者の勤務環境の向上に資する形で活用されている。

[医療機関への支援金配分額] 総額 4億3,121万6,977円

第一次 19病院・2関係機関 3億1,508万9,977円

第二次 13病院 1億1,612万7,000円

Ⅱ 総合福祉ゾーン「しあわせの村」をはじめとする市民福祉施設の管理運営

[公2] 475百万円

ノーマライゼーションの交流拠点である「しあわせの村」においては、豊富な資源やこれまで培った活動実績、ネットワーク等を活用しつつ、村の中でイノベーションを起こし、福祉課題解決のためのさまざまな試みを行うことにより、村の内外からの人材の交流や多様な市民の参画を進め、「ソーシャル・インクルージョン(誰もが居場所と役割を持ち市民として包摂され、誰もが取り残されない社会)」の実現を目指していくため、専門的能力を有する事業者と共同事業体を構成し、指定管理者として運営を行った。

協会は、共同事業体の代表法人として運営全体の総合調整を行うとともに、利用者の安全・安心の確保や施設の維持管理を行ったほか、市民福祉の理念実現のため、福祉事業や市民交流事業の企画・実施等の役割を担った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、年度内に2度の緊急事態宣言が発令され、宿泊施設をはじめとする多くの施設が供用休止、供用時間短縮等の対応を執るとともに、イベントや教室についても中止・実施方法を変更するなど、事業運営に大きな影響を受けることとなった。

【令和2年度 しあわせの村利用状況】

	利用者数	令和元年度	対前年度比
入村者数	1,586,300人	1,861,800人	△14.8%
施設利用者数	576,447人	1,063,512人	△45.8%
宿泊施設	16,115人	64,671人	△75.1%
温泉	122,420人	203,488人	△39.8%
屋内運動施設	118,715人	282,192人	△57.9%
屋外運動施設	277,131人	419,194人	△33.9%
研修館等	42,066人	93,967人	△55.2%
イベント等	14,854人	140,869人	△89.5%

※入村者数の算出方法の見直しについて

従来は各施設利用者数とイベント等参加者数を基に算出していたが、新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、芝生広場など有料施設以外の利用者を反映させるため、令和2年度は入村車両台数を基準とした新たな算出方法により推計した。

【緊急事態宣言発令(県休業要請等)にともなう施設の対応状況】

	令和2年4月7日～5月21日	令和3年1月8日～2月28日
宿泊施設	休業	営業(一部は休業)
温泉	休業	営業時間短縮
屋内運動施設	休業	営業時間短縮
屋外運動施設	休業	営業(一部時短)
研修館等	休業	営業時間短縮

【しあわせの村運営共同事業体】

事業者名	担当業務
(公財)こうべ市民福祉振興協会	村全体の総合調整、市民福祉事業の実施 他
(株)グリーンホスピタリティーマネジメント	宿泊・野外活動施設の管理運営
(株)ウエルネスサプライ	温泉健康センター(温泉、体育館等)の管理運営
美津濃(株)	屋外運動施設(テニスコート等)の管理運営
(公社)神戸乗馬倶楽部	馬事公苑の管理運営
(一財)神戸すまいまちづくり公社	各施設の設備等の維持管理

1 障がい者ディーセントワーク(仕事に生きがいと人間らしい尊厳を持つこと)の実現

(1) 村内施設における“しごと”づくり

村内における障がい者の就労を一層進めるため、令和2年度に「しあわせの村実習受け入れセンター」を開設し、村内事業所での職場体験実習の受け入れに向けたマッチングやサポート業務を開始した。

また、清掃や園地管理等の施設管理業務を村内福祉施設等へ委託するなど、障がい者の就労や自立・社会参加の支援とともに、村内での新たなしごとづくりに取り組んだ。

さらに、農業を通じた障がい者の就労拡大に取り組んできたするなど、障がい者の活躍できる場を拡充した。

①職場体験実習

[受入施設数] 4施設 [受入人数] 延17人 [実習実施日数] 83日

②農業体験

[参加施設数] 3施設 [参加人数] 延128人 [体験実施日数] 26日

③農福連携サポーター(農業体験活動を支援)

[登録者数] 29人 [活動人数] 延244人 [活動日数] 27日

(2) 障がい者施設製品のブランド力向上・販売支援

障がい者施設製品や施設のPRと販売を一体的に行う本館・宿泊館1階の「はっぴねすコーナー」において、製品の販売機会拡大と取扱商品の充実を図るため、市内障がい者施設を対象に新たな出店者を募集し、商品の販売を開始した。

また、村内障がい者施設(4施設)による「缶バッジ☆マグネット製作隊」の受注・販売活動に対する支援を引き続き行った。

なお、これまで村で生産・販売してきたオリジナルブランド「神戸幸品(こうべこうひん)」については、協会が生産から販売までを一貫して手掛ける形の事業展開を中止した。

①はっぴねすコーナー売上額 1,905千円 〈1,434千円〉

②はっぴねすコーナー出店施設 32施設 〈13施設〉

③缶バッジ☆マグネット製作隊受注実績 12,146個 〈12,799個〉

2 障がい者スポーツ・芸術の振興

(1) 東京パラリンピック・世界パラ陸上に向けた支援

オーストラリアパラリンピックチームなどへの練習会場としての村内施設の提供、神戸市が主催する「東京2020パラリンピック聖火リレー 聖火フェスティバル(聖火ビジット)」については、大会開催が令和3年に延期となったためすべて中止となった。

また、令和3年に神戸市で開催予定であった「世界パラ陸上」についても令和4年に延期が決定した。

(2) パラスポーツ支援のための施設改修

東京パラリンピックや世界パラ陸上の開催は延期となったが、予定していた多目的運動広場の改修を神戸市から委託を受け実施するとともに、神戸市において体育館の改修が実施された。

①多目的運動広場

トラック部分について、新国立競技場と同じ仕様の全天候型舗装材(モンドトラックWS・合成ゴム製)に改修した。

②体育館

高反発で車いすバスケットボールに適した床面素材(タラフレックス9.2mm)に張り替えられるとともに、空調設備が新たに設置された。

(3) 障がい者スポーツの振興

障がい者の健康増進、心身機能の維持・向上や生きがいづくりを目的とした各種スポーツ教室を実施するとともに、障がい者と健常者がスポーツを通じて相互理解を深めることを目的とした交流イベントを実施した。

なお、しあわせの村で開催を予定していた全国の障がい者スポーツ指導者を対象とした研修会は、令和3年度に延期した。

①障がい者スポーツ教室

[実施種目] 水泳、卓球、親子運動、テニス、アーチェリー、ニュースポーツ

[実施回数] 水泳、卓球運動あそび 年2期(春期中止)

テニス 年5期(第1期(4~5月)中止)

アーチェリー 年3期(春期中止)

ニュースポーツ 毎月(4~5月中止)

[受講者数] 359人 (845人)

②スポーツ交流イベント

パラリレーカーニバル(新規)

[実施日] 10月4日 [参加者数] 71人

トレイルオリエンテーリング(新規)

[実施日] 10月25日 [参加者数] 105人

パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 夢プロジェクト2020

[実施日] 11月3日 [参加者数] 2,886人 (3,884人)

(4) こころのアート展・手のひらギャラリー

「こころのアート展」については、令和2年度は作者の公募は行わず、過去の出展作者の

中から新たな作品を選考して特別展を実施するとともに、年間を通じてこころのアート展の作品を鑑賞できる常設展示スペースとして、「こころのアートギャラリー」を本館・宿泊館2階に新たに設置した。

また、神戸旧居留地エリアの企業等の協力を得て、エリアを散策しながら作品を鑑賞する「神戸旧居留地こころのアート展」を初めて実施した。

一方温泉健康センターの「手のひらギャラリー」では、障がい者施設・事業所等を対象として、障がい者の芸術・創作活動を発表できる場を引き続き提供した。

①こころのアート展2020

[実施期間] 12月2日～1月3日 [来場者数] 3,852人 〈8,400人〉

②神戸旧居留地こころのアート展

[実施期間] 3月10日～3月23日 [作品展示場所] 11か所

③手のひらギャラリー [利用件数] 4件 〈8件〉

3 アクティブエイジングを活かす

(1) 神戸市シルバーカレッジの運営

高齢者の豊かな経験を活かして自らの可能性を拓き、その成果を社会へ還元することを目指して高齢者に学習や実践活動の場を提供するため、健康福祉、国際交流・協力、生活環境、総合芸術の4つのコースを設け、コース別の専門授業や社会貢献などの共通授業、スポーツ授業を実施するとともに、学生のボランティア活動や地域交流活動などの社会貢献活動に対する支援・協力を行った。

[令和2年度入学者数] 326人(うち、再入学者数 60人) 〈386人(うち、再入学 96人)〉

[令和2年度末在籍学生数] 788人 〈890人〉

健康福祉コース 133人 〈145人〉

国際交流・協力コース 163人 〈193人〉

生活環境コース 146人 〈164人〉

総合芸術コース(4専攻) 346人 〈388人〉

[授業実施状況]

令和2年3月2日～8月31日 臨時休校(24期生卒業式、27期生入学式は中止)

7月1日 学校再開に向けた説明会を開始

25期生(3年生)のグループ学習を再開

9月1日 学校活動全体を再開

令和2年度は年間授業日数を60日から40日に削減

しあわせの村内研修館等を活用し広い学習会場で授業を実施

一部授業にリモート授業を導入

(2) グループわとの連携

神戸市シルバーカレッジの卒業生の社会貢献活動の機会を広げるため、「NPO法人社会還元センターグループわ」と連携し、当協会が実施する村内事業に対して企画段階からの参画を得て、しあわせの村の魅力向上を図った。

令和2年度は、10月に「ビバ・ハロウィン『こうべっこひろば』」と題して、ものづくり

体験やステージショーを通じて親子や子ども同士の交流を深める事業を新たに実施した。

①わいわいストリート 中止 〈1,380人〉

②夏休み工作塾 [実施日] 8月8日 [参加者数] 190人 〈390人〉

③ビバ・ハロウィン「こうべっこひろば」 [実施日] 10月25日 [来場者数] 1,884人

(3) 認知症・フレイル予防に対する支援

「しあわせの村健康倶楽部」の創設（再掲）

4 子ども・子育て支援

(1) 支援が必要な児童に対する取り組み

発達気になる児童に学校行事の事前体験の場を提供する「発達気になる子の体験ひろば」や、発達障がいに対する理解を深めながら子どもの成長に向き合うための「保護者向け講座」は、事業全体を中止とする一方、今後事業を体系的に実施していくため、専門家による運営体制やプログラムの見直しについて検討を行った。

また、これまで実施してきた「ファミリー日帰りキャンプ」については、障がい児とその家族が日帰りキャンプを気軽に体験できるよう「家族で楽しむキャンプ入門」という新たな形で実施した。

[実施日] 10月25日 [参加者数] 25組 119人 〈11組 35人〉

(2) あらゆる子どもの成長支援

自然環境を活かした子どもの成長支援、交流や人材育成などの地域づくりを目的に、市内関係団体やしあわせの村ボランティア、NPOなどと連携し、子育て・子育て支援に取り組んだ。

① 子育て・子育てイベントの実施

しあわせの村の公園施設などを活用して子どもの実体験を支援するプログラムの実施や、親子での創作体験などの世代間交流やしごと体験イベント等の社会経験機会の提供など、さまざまな子育て・子育て支援を目的とした事業を実施した。

ア.親子で楽しく学ぼう福祉のオリエンテーリング(新規) (再掲)

イ.夏休み工作塾 (再掲)

ウ.家族で楽しむキャンプ入門 (再掲)

エ.村の小さなお祭り(新規)

野外活動センターあおぞらのキャンプファイアー場を活用し、家族で手持ち花火を楽しめる場を提供した。

[実施日] 8月29日、9月5日 [参加者数] 1,895人

オ.ビバ・ハロウィン「こうべっこひろば」(新規) (再掲)

② 子育て支援駐車料金無料化

神戸市が進める子育て支援施策として、18歳未満の子どもとともにしあわせの村を利用した場合に、普通車駐車料金の無料化を引き続き実施した。

[子育て支援無料化台数] 94,750台 〈119,450台〉

(3) 平磯児童館の運営

児童に健全な遊びの場を提供し、その健康の増進または情操を豊かにする活動を通じて、地域における市民福祉に寄与することを目的に、指定管理者として児童館の運営を行った。

① 児童健全育成事業

自由来館児童への遊びの提供・指導、季節行事、在宅福祉センターや地域福祉センターの高齢者との交流会等を実施した。

② 子育て支援事業

- ・「幼児の会」（毎週1回、2～5歳児の親子を対象にした手遊び等のプログラム）
- ・「ミニミニっ子」（毎月1回、0～2歳児の親子を対象にした手遊び等のプログラム）
- ・「すくすくひろば」（毎月1回、地域団体が実施する0～5歳児の親子同士の交流を図るための季節行事等のプログラム）

[来館者数] 5,323人 〈7,432人〉

5 しあわせの村の活性化・イノベーション

(1) 魅力向上に向けた取り組み

① 発信力の強化

「しあわせの村広報部会」において広報媒体の現況を検証するとともに、SNSなどの新たな広報手段の活用など今後のしあわせの村の広報のあり方について検討した。

また、しあわせの村ホームページ内で手話通訳動画の配信を開始(再掲)し、施設の営業状況やイベント等の開催情報、施設の利用案内を提供した。

さらに、入村者アンケート調査では、新型コロナウイルス感染症がしあわせの村の利用状況にどのような変化を与えたのかについて神戸学院大学に調査結果の分析を依頼した結果、若い世代ほど施設を利用する回数が増えたと回答した割合が高く、その満足度も高かった。

① しあわせの村広報部会 [開催回数] 2回

② 入村者アンケート調査 [実施回数] 年1回・2日間 〈年1回・2日間〉
[有効回答数] 1,935件 〈1,769件〉

② 市民交流事業

各種の市民交流事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況をみながら実施するとともに、子育て世代を中心とする若年世代の利用頻度が高くなっているという入村者アンケート調査結果もふまえて、新たな事業にも取り組んだ。

ア. こうべ福祉・健康フェア

令和2年度は、会場への入場を当日受付制とし人数を制限、また会場内を一方通行とし混雑対策を講じるとともに、出店数の制限や飲食物の販売禁止、子ども向け体験イベントや各種検診を中止するなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して実施した。

[実施日] 11月1日 [来場者数] 1,460人 〈18,000人〉

イ. しあわせの村まつり

令和2年度は中止とする一方、「しあわせの村まつり実行委員会」において今後のまつりのあり方について検討した。

[実行委員会開催回数] 2回(1回中止)

ウ. こうべろハスひろば 中止 〈年4回 55,000人〉

エ. マンスリーミニコンサート

新型コロナウイルス感染症対策として事前申込制としたミニコンサートを実施するとともに、コンサート動画を制作した。

〔実施回数〕3回(11月～1月) 〔来場者数〕200人 〈11回(1回中止) 3,584人〉

オ. ウォークラリー with Dog 中止

カ. 村の魅力ある自然環境を楽しむ

日本庭園をはじめとするしあわせの村の公園施設を活用し、豊かな自然環境を体感しながら魅力を感じることができるイベントを実施した。

i 夜桜ライトアップ 中止

ii 紅葉ライトアップ

〔実施日〕10月30日～11月15日(17日間) 〔来場者数〕4,075人 〈17日 6,632人〉

iii 緑のオリエンテーリング

〔実施日〕10月3日 〔来場者数〕281人 〈クイズラリー 240人・藍染体験 63人〉

③ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大をふまえた事業の実施(新規)

ア. 親子で楽しく 学ぼう 福祉のオリエンテーリング(再掲)

イ. わくわくクイズラリー

しあわせの村内を巡りながら村に関する簡単なクイズに答え、ゴールした方にプレゼントを進呈する、来村者が気軽に参加でき楽しめるイベントを実施した。

〔実施日〕7月23日～7月31日、8月8日～8月17日、8月22日、8月23日、
8月29日、8月30日(23日間)

〔参加者数〕1,284人

ウ. 村の小さなお祭り(再掲)

エ. 市民ふれあいトライアル

運動広場のリニューアルを記念し、障がい児や家族が参加できる走り方教室や、小学生以上のだれもが参加できるタイムトライアルを実施した。

〔実施日〕9月20日 〔参加者数〕303人

オ. ビバ・ハロウィン「こうべっこひろば」(再掲)

カ. 市民絆リレーマラソン

家族や友人、チームなど(2～30人)でフルマラソンやハーフマラソンと同じ距離をリレー形式で完走を目指し、改修された運動広場の体験機会や仲間の絆づくりの機会を提供した。

〔実施日〕1月17日 〔参加者数〕13組 101人

キ. 「神戸市民向け家族宿泊プラン」の実施支援

神戸市民の家族連れを対象とした宿泊プラン「神戸市民限定 子育て応援キャンペーン」を共同事業体事業者が実施することに対して、村内施設を優待料金で利用できる「お楽しみ優待パスポート」の発行などの支援を行った。

〔実施期間〕7月20日～ 随時 ※継続実施中

〔対象施設〕村内のすべての宿泊施設(本館、たんぼぼ、ひよどり、あおぞら)

〔利用者数〕延721人

④ ユニバーサル農園活動

「ユニバーサル農園」において、レクリエーションや障がい者の機能回復等を目的として、村内の福祉施設の高齢者や障がい者や児童に野菜の栽培や収穫等の農園活動の体験機会を提供した。

[参加団体数] 8団体 [参加人数] 701人 〈8団体 755人〉

⑤ 総合的な維持管理

ア. しあわせの村を訪れるだれもが安全・安心・快適に利用できるよう、施設の保守・修繕や警備、無料巡回バスの運行等の総合的な維持管理を行った。

イ. 一年中花を見ることができ、市民の憩いとリフレッシュの場として人気が高い緑地について、引き続き快適な空間として利用いただけるよう維持管理を行った。

(2) ボランティア活動の推進

令和2年度については、スポーツ教室やイベントが中止や開催方法が変更となるとともに、ボランティアの安全確保の観点からその活動が制限されることとなった。

一方、ユース(大学生)ボランティアについては、自立した活動を行うことができる団体としていくため、(公財)神戸YMCAと連携して継続的に研修会を実施した。

[ボランティア登録者数/活動者数]

①障がい児・者向けスポーツ教室指導補助ボランティア

58人/延619人 〈63人/延2,288人〉

②社会人ボランティア 55人/延489人 〈54人/延619人〉

③ユース(大学生)ボランティア 43人/延187人 〈91人/延1,402人〉

④花緑ボランティア 19人/延560人 〈19人/延897人〉

⑤おはなしの会 10グループ82人/活動なし 〈11グループ94人/延284人〉

[ボランティア研修会開催実績]

①水泳ボランティア向け研修 中止(2回予定) 〈1回(2回予定)〉

②ユース(大学生)ボランティア向け研修 6回 延66人参加

(3) ユニバーサル社会に配慮した施設整備

高齢者や障がい者の利用割合が高い施設の特性を考慮しながら、協会において策定した「しあわせの村ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、当事者の意見を活かし検証しながら、引き続きだれにでもやさしい村づくりを進めた。

令和2年度は、トイレの洋式化改修工事を引き続き実施するとともに、「アイ・ドラゴン4」(再掲)を村内3か所に設置した。

一方、村内利用者向けナビゲーションアプリ「こうべだれでもナビ」などこれまでICT技術等を活用しながら整備してきたシステム・機器の運用については、兵庫県立福祉のまちづくり研究所の意見をふまえ見直しを行った。

[トイレ改修工事实施施設]

多目的運動広場、テニスコートクラブハウス(1階・2階)、アーチェリー場、日本庭園、馬事公苑

Ⅲ 介護保険制度の公正・公平な運営を確保するための事業[公3] 342百万円

指定市町村事務受託法人として、市内全域における介護保険サービスの受給を新規に申請する市民、及び要介護度の変更を申請する市民に対して訪問・調査を行う「要介護認定調査業務」を神戸市からの受託により実施した。

[調査件数] 32,773件 〈32,522件〉

【収益事業等】

指定管理施設に付帯する便益施設及び市民福祉施設の運営等 632百万円

1 しあわせの村内便益施設の運営

①有料駐車場

神戸市シルバーカレッジ在学学生を対象として、利便性の向上や村内施設の利用促進を目的とした定期券の発行を令和2年10月から開始した。

[神戸市シルバーカレッジ学生定期券発行枚数] 293枚

[有料利用台数] 159,905台 〈215,408台〉

[子育て支援無料化台数] 94,750台 〈119,450台〉 (再掲)

②公衆電話 [設置台数] 4台 〈4台〉

③貸館 (神戸市シルバーカレッジ内ホール等、日本庭園内茶室)

[利用者数] 《ホール等》380人 〈2,905人〉 《茶室》265人 〈824人〉

④屋外アドベンチャー遊具 (民間事業者と連携し設置)

[施設名称] BOUKEN Adventure Park 神戸しあわせの村

[運営事業者] 株式会社冒険の森

[利用者数] 17,750人 〈7,895人・令和元年11月30日開設〉

2 保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺

市民の健康の保持・増進を図るために建設した同施設について、公募により選定した民間事業者により運営を行った。

[運営事業者] 株式会社なでしこの湯

[利用者数] 《宿泊》3,257人 〈8,429人〉 《温泉》144,742人 〈241,599人〉

[新型コロナウイルス感染症への対応状況]

4月17日～5月24日 全館休業

5月25日～7月31日 温泉施設(レストラン除く)及び売店営業再開

8月1日 宿泊施設営業再開(温泉レストラン、直売所は休業継続中)

※全館休業及び宿泊施設休業の期間に対して賃料減額を実施

3 サン舞子マンション

平成23年度に社会福祉法人へ事業を承継したが、入居預り金の管理等を引き続き行った。

[事業承継法人] 社会福祉法人神港園